

明徳短大

歩き遍路体験学習同行記

秋恒例の今治明徳短大「歩き遍路体験学習」が九月十二日から五日間実施され、学生十一名と教職員が参加した。今年のコースは三千七番岩本寺から大月町、月山神社を経由して延光寺に至る一五四キロ。

月山神社はかつて守月山月光院南照寺と号した番外札所。大月町史によると「役行者が月山を刈り広げ、月山大神を祀ったのが起源。後に弘法大



復元された遍路道を行く明徳短大生

師が金剛福寺再建のおり月山を巡行、月待ちの密行を修し勢至菩薩を刻み守月山南照寺とした。明治元年の廃仏毀釈令によつて月山神社に改称されたが、境内の大師堂に立ち寄るお遍路さんは今も多い。昨年春、付近の旧遍路道を復元しようと大月へんろみち保存会(浅井堂主会長)が発足。大月町大浦から月山神社、赤泊の浜を経由して姫の井に至る約八キロの区間が開通した。一行が大浦に到着したのは四日目の午後二時半。地元婦人会のお接待を受け、元氣を取り戻して峠を越える。直前の台風による倒木や、張り巡らされたクモの巣に悩まされながら月山神社に到着、神官の説明を聞き、学生が神社の縁起を紹介した。

き、一気に急坂を下り赤泊の浜に出る。海岸を被い尽す大小の石に足を取られつつ約四百メートルばかり進むと、西田忠雄さんが迎えに来てくれた。西田さんはかつての善根宿・西田家の当主。

西田家には、米俵に入った文政八年から明治四十三年までの納札約一万五千枚が残されている。残りといった人たちの中に僕たちの先祖がいるかも知れない、と聞かされた感動した。涙が出そうになった」と語った。学生たちも納札の背景にある歴史の重さや地方文化の伝統に大きく心を動かされたようだ。

最終日。宿舎を出発、道の駅「ふれあいパーク大月」にあるへんろ小屋「しんきん庵」で幡多信「歩くことを甘くみてい

接待に感謝、絶景に感動

古い納札・資料見て感慨深げ

さらに山道を歩いていくと突然前方が開け、眼下に沖ノ島が浮かぶ。絶景に感嘆の声をあげながら峠の尾根をしばらく歩

る。西田さんの説明を聞き、緒方太くん(食物栄養専攻一年)は「納札を

用金庫と町役場職員からの接待を受ける。「しんきん庵」は歌一洋さんの

た。二日目、三日目は辛かったが、仲間を支えられた。アスファルトに比べ、山道は優しい。平野貴子さん(幼児教育科一年)は「海沿いの道は瀬戸内海しか知らなかった。太平洋はすごい。歩きはあまり負担にはならず、楽しかった」。田坂知未さん(幼児教育科一年)は「歩きはきツイが、素晴らしい。歩くことが好きになった」と五日間を振り返った。

今回は旧遍路道の復旧に尽くした山下正樹さん(現・奈良市在住)が同行、学生とともに先達役を務めたため更に有意義な体験学習をすることができた。



西田家で古い納札を興味深げに見入る一行



延光寺に無事結願